

本検討会の主な検討事項と進め方について

平成31年3月26日(火)
第3回 首都圏における大規模水害広域避難検討会

「首都圏における大規模水害広域避難検討会」の設置について

設置趣旨

- 平成30年3月に「洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討ワーキンググループ」（以下、「中防WG」という）にて「洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難に関する基本的な考え方（報告）」が取りまとめられた。大規模・広域避難の全体像や広域避難計画を策定するための具体的な手順等が示され、基本的な考え方の具体化に向けた取組を進める必要があるとされた。
- 本報告を踏まえ、首都圏における大規模水害時の大規模・広域避難の実装に向け、特に、行政機関等の関係機関が連携して取り組むべき事項について整理するとともに、関係機関間の連携・役割分担のあり方について検討することを目的とし、平成30年6月、「首都圏における大規模水害広域避難検討会」を設置する。

想定される課題

課題1：広域避難場所の確保

- 一般的な避難の場合、住民等は自治体から提供される避難場所等が明示されたハザードマップ等を参考に避難を実施
- 広域避難の避難率の向上に向けては、自主避難先の確保を推奨するとともに、住民等に対して避難場所等を示すことも必要

課題2：避難手段の確保・避難誘導

- 大規模・広域避難では避難に長時間を要し災害発生の予測精度等を踏まえると、広域避難勧告の発令から避難に充てられる時間は限られている一方、膨大な数の避難者が避難を完了するには時間を要する。
- 膨大な避難者が自主避難先や公的な避難場所へ速やかかつ円滑に避難するためには、鉄道等の避難手段を確保するとともに、駅や橋梁部等における混乱抑制が必要

検討の進め方

対象災害

・洪水と高潮を対象災害

・洪水は、中防WGと同様に荒川・江戸川の想定最大規模の浸水想定最大包絡

・高潮は、平成30年3月に都より公表された、想定最大規模の浸水想定

・関係機関間の連携の検討にあたって、中防WGの洪水の基本ケース（カスリーン台風）のシナリオをモデルケースとする

対象地域

・東京低地帯のなかでも避難条件が特に厳しい荒川下流域を中心とした地域

主な検討内容

- 以下の2点を中心に、関係機関等が連携して取り組むべき事項の整理と連携・役割分担のあり方についてとりまとめ

①広域避難場所の確保

②避難手段の確保・避難誘導

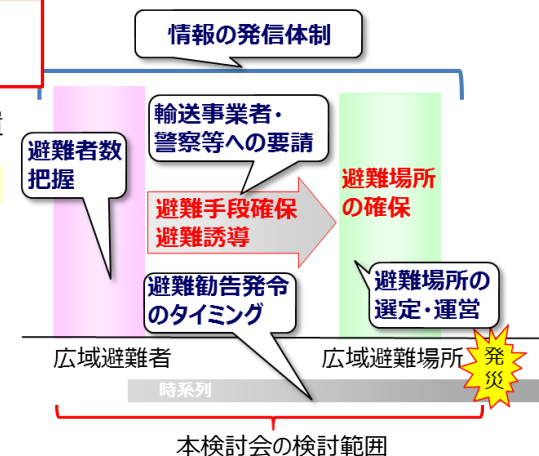
検討会の下に2つのWGを設置

広域避難場所検討WG

- ・広域避難場所の選定・運営
- ・情報発信等

避難手段・誘導WG

- ・輸送機関・警察等への要請
タイミング・方法等



検討会のスケジュール

【2018年度】

- ▼ 6月1日 第1回検討会(中防WGの振返り、検討事項等)
- ▼ 11月19日 第2回検討会(課題の洗い出しと課題解決に向けた検討方針のとりまとめ)
- ▼ **3月26日 第3回検討会(課題解決に向けた基本的な考え方の整理)**

【2019年度】

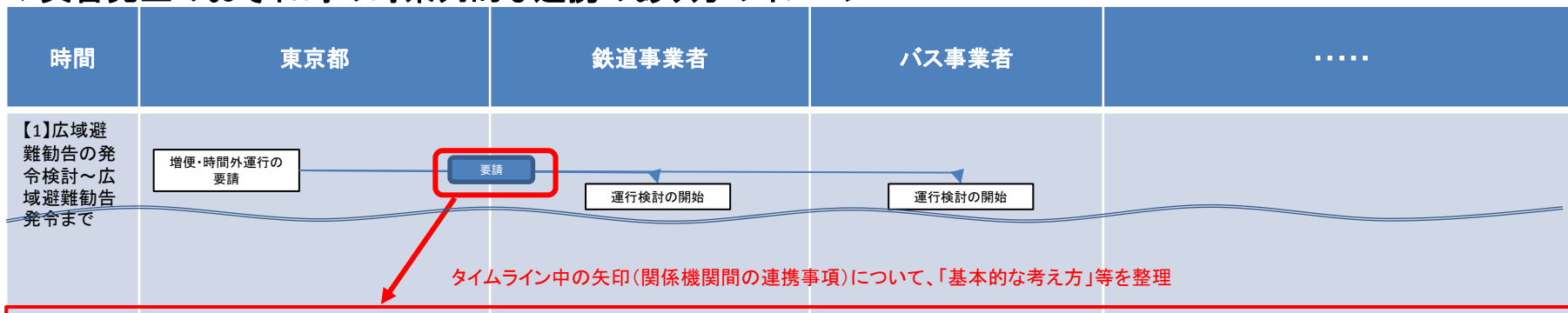
- ▼ 検討会を2回程度開催
⇒**検討会報告とりまとめ：役割分担・連携のあり方**(年度末)

○平時及び発災のおそれが高まってきた段階における広域避難時の関係機関の役割分担や時系列的な連携のあり方をタイムラインとしてとりまとめる。

▼平時における関係機関の役割分担と協力内容の整理のイメージ

実施主体と対策の方向性			協力機関と協力内容	
分類	対策の方向性	実施主体	協力内容	協力機関
運行(増便)に係る対策	輸送力を確保するための運行計画を策定する。	鉄道事業者 バス事業者	□ 避難人数(乗車駅・降車駅)を提供する。	○○○

▼災害発生のおそれ時の時系列的な連携のあり方のイメージ



鉄道事業者に対する運行要請

【基本的な考え方】

- ・協力要請の実施者は、……。
- ・協力要請対象事業者は、……。
- ・協力要請時の連絡事項は以下を基本とする
 - 広域避難勧告の発令時期
 - ……
 - ……
 - ……
- ・協力要請の実施時期は、……
- ・協力要請の連絡手段は、……

【ワーキンググループでの検討事例】

- ……
- ……